

一瞬の地震で家業も 目の前の道路も 消え去ってしまった

2022年に創業50周年をむかえた水道・瓦斯・電気の設備事業事業者株式会社ミヨシテックの経営者として私はいま仕事をしています。大阪府寝屋川市が本拠地、仕事内容は①大阪瓦斯さんの特約店として、空調工事・般住宅の床暖房などの設備機器工事・瓦斯工事②「住まいのおたすけ隊」として、寝屋川市・枚方市南部エリアを中心にした水道工事・電気工事・リフォーム工事③パナソニックさんの工場内の設備保守メンテナンスなのですが、それに加え近年ではDXに力をいれ④kintoneやRPAロボットを始めとしたITツールによる業務改善、それらを使用している企業様向けのシステムコンサルも行っています。こちらはウェブシステムを使用し全国のお客様にサービスを、提供しています。総勢114名のスタッフを率い、「お客様に感動を与え、満足と信頼をいただく会社」を目指し情熱的に日々仕事をしています。

ミヨシテックの始まりは1972年(昭和47年)母方の叔父である三吉忠彦が創業しました。詳しくいうと私の母の姉の旦那さん、ですので私とは血は繋がっていません。空調機器を製作する日本熱学という会社で働いていた叔父が、これからは瓦斯の時代が来ると考え、立ち上げたのが始まりです。そこで最初に決めたのが会社名、叔父がつけたのは「日本瓦斯株式会社」大阪瓦斯さんとすぐに特約店契約を結んだのですが、大阪瓦斯と取引をするのに日本瓦斯だと名前がデカすぎるだろう、社名変えなさい!と物言い

が入りました。そこで「ミヨシガスセントラルヒーティング」に社名変更し、スタートを切りました。ちなみにこの時かかった費用はすべて大阪瓦斯さんが負担してくれました。立ち上げて以降は高度成長時代の波にのり社業は順調に発展していききました。子どもがいなかった叔父は小さいころから私を息子のように可愛がってくれ、お盆やお正月に会うたび「うちの会社に来て!」と言ってくれていました。

父方も商売をしていて、祖父が創業し父が継ぎ時計・宝石・眼鏡を扱うお店を経営していました。西宮に本店があり仁川などに多店舗展開し手びろく商売していたのですが、1995年の阪神淡路大震災ではほとんどのお店が潰れてしまったのです。当時私は大学3年生。被害が大きかった神戸市東灘区に住んでいたのですが阪神高速道路が崩壊するのを目の前で見ました。一瞬の地震で家業も目の前の道路も消え去ってしまった。あのなんとも言えない切なく寂しい感情はいまでも忘れることができません。通っていたのが神戸商船大学。高校生のときに雑誌「ニュートン」をみたとき、超伝導電磁推進船というプロペラのない船「ヤマト」の特集が載っていてこれにすごい興味を惹かれました。調べてみると神戸商船大学でこの研究をしていると知り進学することにしたのです。学生時代の専攻は超伝導の研究。お盆とお正月以外は朝から晩まで研究に没頭する生活でした。たまたまなのですが実は創業者の三吉忠彦がこの学校の第一期生なのです。こういうところでも何か不思議な縁を感じますね。

阪神淡路大震災の時に会社が忙しくなり、その時点で入社を求められたのですが、もう少し研究をしたかったので待つてもらい大学院を出てから1998年に

完成形があるから設計図ができ、 設計図があるから何をすべきかが明確になる

